特別
へ13
4394

N13
4394

農業

序

時ならぬ机春毎の新板通ひる哉西羽帝の
教訓 古道てハ道の誠と知ることを志す
見越入道や一眼の近年より化て長棹にて
安達ヶ原の婆と備屋こなく西の海でと高台を
繪草屋まで出し紙芝居ハ世の名まんを
つ作て志はあらく方よ居候とかりぬ
皆かとくハ彼等西羽帝の多し者ハ本屋の
錢とかけとかりしみの世ハ流石ほとをく
見離ずゆるめりしくハちん屋ものとまう
二義の拵りしうくしむ

時の初春

山城屋文庫

老婆

〈2115-104〉

半勝
山城
ひらーんやられさんさ

こゝはなに
こうしてくのてをつまくるのを
あゝ
居ひとりとしよう
まくかふらそ
して、ふひ
ようにいぶんを
あの後
わるドれ
まもあれば
もう合
ぶんを
もう
いろそ
月あるうでと
うんを
つふふひて
りいむ
やとくも
ふおひろんを

うてを
やたもの
れなかが
でけりのと
ぎうくみて
えそけあが
らのを食へ
ドのい
ちぎぶう
のそしんせん
よりしくい
けをべちまが
ありと大きにようこひ
う縁で屋ん伊ちの
ぶんふつれてらをれ
あれいをんさのんで
うのやれへでりい
あをつふこもて
むしのをひいお
あうんとひそうん
まみりのと
よのをふ
まるる
うてをでみをおるい
ひるのくらざうく
ところくとてれーまの

山城
本久

山城 木久 蔵

木久

木久

辰春新版惣目録

跡月論噓實録　三冊

全盛大通記　三冊

狂言好野暮太名　三冊

八橋調乃流　三冊

化物御家髭松明　二冊

万象亭戯作濫觴　二冊

袋入

頼朝一代記　五冊

右大将源頼朝公の八歳より八十歳迄の事を山城の外郎が八百里の道程をとをるとも

大塔宮一代記　五冊

護良親王戦場を駆廻り諸国の山々谷々を巡り給ふ事

遊女の形板扣義の心を戒る経可き事を教上れば之

廿木久